



H23.10.7保健師中央会議 実践事例報告

青森県新任等保健師 育成支援事業について

青森県健康福祉政策課
大鰐 恭子



青森県の概要 (H22.10.1推計人口から)

県人口	1,373,164 人
世帯数	513,311世帯
出生	9,754人
高齢者割合	25.25% (H23.2.1)
市町村	40市町村 (中核市1, 9市23町7村)
県保健所	6カ所



保健師の状況 (H23.4.1現在)

○ 保健師の配置状況

県 71人、市町村 396人

(1) 県保健師配置部署

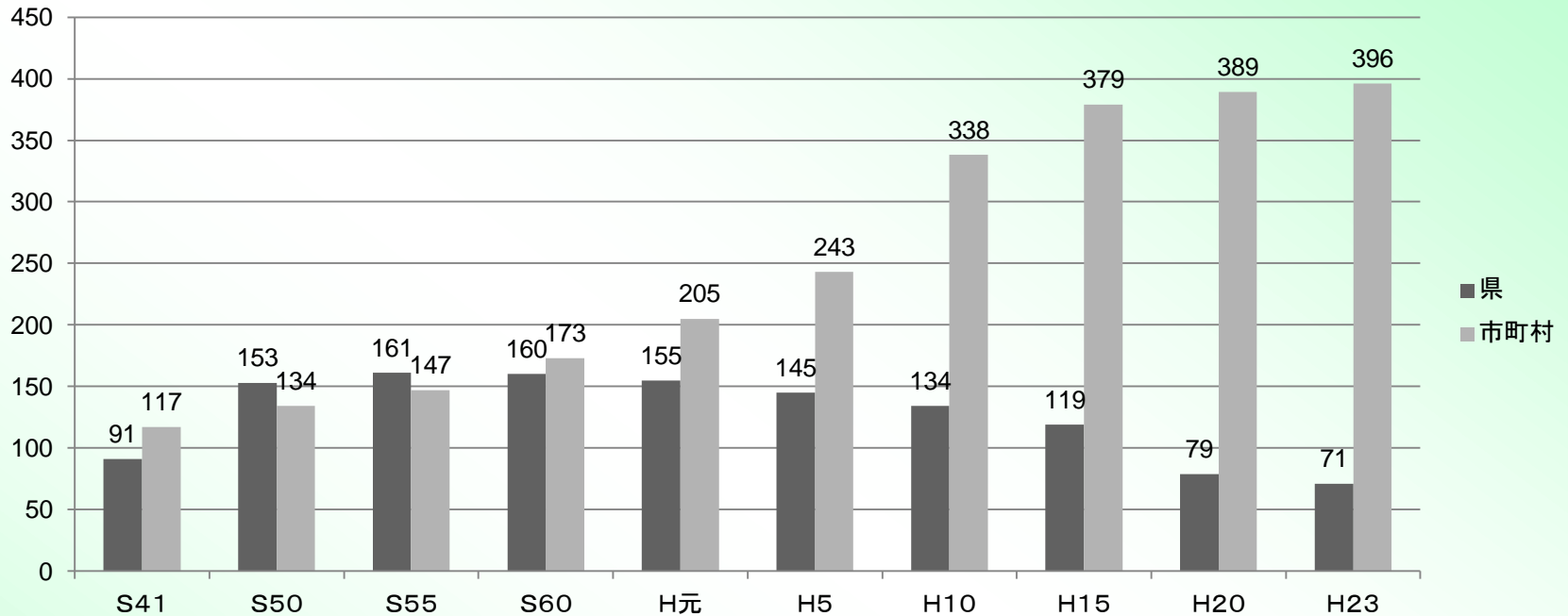
保健所61人、精神保健福祉センター1人、
県立精神科病院1人、本庁8人

(2) 市町村保健師配置部署

所属	保健	福祉	介護保 険	包括支 援	病院	国保	他部門
人数 (市町村数)	308 (40)	13 (7)	9 (5)	63 (31)	1 (1)	1 (1)	1 (1)



青森県保健師配置数の推移(各年度4月1日現在)

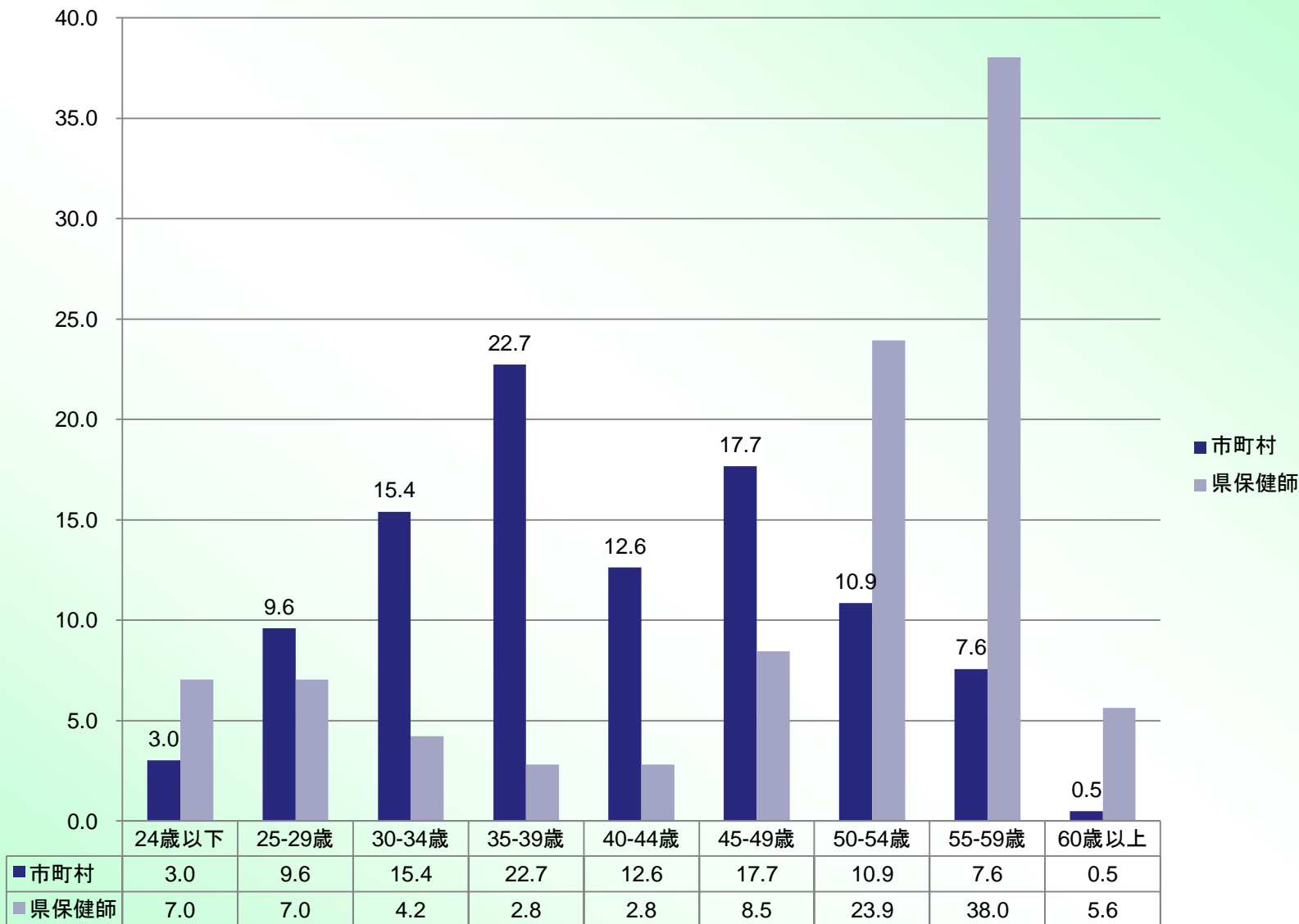


保健師採用状況

年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
県	2	1	0	0	0	3	2	2	4
市町村 (市町村数)	11 (8)	11 (10)	4 (3)	9 (5)	13 (9)	16 (8)	9 (8)	17 (11)	7 (5)



平成23年度県・市町村保健師年齢別割合





事業化の背景

- 1 予防重視の包括ケアシステムの中核的担い手としての保健師活動に対する期待
- 2 保健師活動が事業主体となり、家庭訪問等による個別対応の希薄化
- 3 県保健師と市町村保健師の年齢構成の著大な不均衡→知の継承が課題



保健師「知の伝承」事業の1つ

「新任等保健師育成支援事業」のねらい

市町村で働く若手保健師を対象に、退職保健師がトレーナー保健師として家庭訪問や健康相談等に同行し、訪問の導入方法や面接技法、あるいは適切な保健指導やその振り返り等一連の対応について、見て感じてもらいその技術等を伝え、地域を「みる」「つなぐ」「動かす」という保健師にとって重要な能力を育成し、地域において求められる保健師活動の普及を実現。



新任等保健師育成支援事業における 各関係機関の役割

【本庁】

トレーナー保健師の登録及び支援市町村へのトレーナー保健師の派遣、トレーナー保健師の研修、事業に係る事前打合せ及び評価等を行い、事業全体を総括する。

【国保連】

県と連携して支援市町村へのトレーナー保健師の派遣、事業に係る事前打合せ及び評価を行う。

【支援市町村】

事業を通して、保健師が専門性を発揮した活動ができるよう、保健師を育成する環境づくりに取り組む。

【保健所】

トレーナー保健師及び所管する支援市町村の活動を支援する機関として、支援内容等の計画作成への助言、トレーナー保健師からの相談対応及び支援市町村との調整等を行う。



トレーナー保健師の役割

- 1 新任等保健師の家庭訪問、健康相談、健康教育及び健康診査に等対人保健サービスに係る支援
 - ① 事前準備の確認
 - ② 実際場面への同行
 - ③ 保健指導内容の補佐
 - ④ 対人援助技術のサポート
 - ⑤ 事後処理の支援
- 2 新任等保健師の育成に係るリーダー保健師等支援市町村関係者との打合せ等
- 3 新任等保健師の育成に係る保健所との情報交換等



事業実績

	20年度	21年度	22年度	23年度
トレーナー保健師 派遣数(登録)	10人 (20)	11人 (24)	11人 (26)	4人 (29)
支援市町村数 (新任保健師数)	9カ所 (14人)	10カ所 (16人)	9カ所 (12人)	4カ所 (4人)
支援日数	293日	294日	214日	92日 (計画)



トレーナー保健師の果たした役割(1)

1 家庭訪問や健康相談等の対人支援サービスを通じた新任等保健師への支援

○新任等保健師

- ・訪問や相談での対応が適切だったのか
- ・事業の進め方が良かったのか
- ・未経験なことに対する漠然とした不安
- ・事業の根拠がよく分からない
- ・誰に何をどう聞けばいいのか

＜トレーナー保健師＞

- ・見守り(寄り添い)
- ・訪問途上での他愛ない会話(失敗談・・・)
- ・活動実施後の振り返り、一緒に考え提案
- ・優しく厳しく楽しく受け止める



トレーナー保健師の果たした役割(2)

2 新任等保健師を含む支援市町村の保健師活動全般への支援

- ・20,30代の同年代同士で統括保健師がいない
- ・保健師活動を創り上げる経験がないため、思い切った活動展開ができない
- ・新任者1人配置で保健師活動の経験がない

<トレーナー保健師>

- ・統括保健師モデル
- ・上司からの相談対応、意見調整や組織内での情報共有
- ・基本的な保健師活動への動機付け
- ・PDCAの実践を支援



支援を受けて深められた内容

(新任等保健師12人へのアンケート結果から) H22年度

- | | | |
|---|--------------------------|-----|
| 1 | 家庭訪問における対人支援技術 | 12人 |
| 2 | 保健師活動のノウハウ | 12人 |
| 3 | 健康相談、健康診査等における
対人支援技術 | 9人 |
| 4 | 保健事業の運営 | 7人 |
| 5 | 社会人として求められる基本的
姿勢 | 6人 |



事業を実施してみても

- 職場内研修(OJT)の重要性
(当該事業がOJTの一環であることの再確認)
- 新任保健師の育成を通して得られた波及効果
- 人材育成への県保健所が果たすべき役割の重要性
- 保健師活動の意義の再確認
- トレーナー保健師との思いの共有化